

参考文献一覽

【参考文献一覧】

第1章

第1節について

内閣府（2003）「平成15年度 年次経済財政報告」

内閣府（2006）「平成18年度 年次経済財政報告」

内閣府（2008）「平成20年度 年次経済財政報告」

内閣府（2009）「平成21年度 年次経済財政報告」

第2節について

内閣府（2003）「2003年春 世界経済の潮流」

日本銀行（2010）「経済・物価情勢の展望」

労働省（1999）「平成11年版 労働経済の分析」

第3節について

岡崎哲二（1998）「日本の財政政策とマクロ経済学—歴史的パースペクティブからの再評価—」
大蔵省財政金融研究所『フィナンシャル・レビュー』

経済企画庁（2000）「平成12年度 年次経済報告」

篠潤之介、高橋耕史（2010）「ソブリンCDS：市場の現状と変動要因について」『日本銀行ワー
キングペーパーシリーズ』No.2010-J-4

東洋経済新報社（2009）「図説 日本の財政」

内閣府（2006）「平成18年度 年次経済財政報告」

内閣府（2007）「日本の社会資本2007」

西崎文平、水田豊、足立直己（1998）「財政収支指標の作り方・使い方」『エコノミック・リ
サーチNo.4、経済企画庁経済研究所編』1998年11月

畑農鋭矢（1998）「社会資本とマクロ経済の生産能力」『一橋論叢』第119巻6号：738-756

畑農鋭矢、中東雅樹、北野祐一郎「税制構造の国際比較」『PRI Discussion Paper Series』
No.03A-22

三井清、太田清編著（1995）『社会資本の生産性と公的金融』日本評論社

- Adrian Orr, Malcolm Edey and Michael Kennedy (1995) “The Determinants of Real Long-Term Interest Rates : 17 Country Pooled-Time-Series Evidence.” *OECD Economic Department Working Papers* No.155.
- Guichard, Stephanie, Mike Kennedy, Eckhard Wurzel and Christophe André (2007) “What Promotes Fiscal Consolidation : OECD Country Experiences.” *OECD Economics Department Working Papers* No.553.
- IMF (2009) “The State of Public Finances ; Cross-Country Fiscal Monitor : November 2009.” *IMF Staff Position Note* 09/25.
- IMF (2010) *Fiscal Monitor – Navigating the Fiscal Challenges Ahead*. May 14, 2010.
- OECD (2000) “The size and role of automatic fiscal stabilizers in the 1990s and beyond, Economics Department Working Papers No.230.”

第2章

第1節について

- 岩本康志、尾崎哲、前川祐貴 (1996) 「『家計調査』と『国民経済計算』における家計貯蓄動向の乖離について (2)」大蔵省財政金融研究所『フィナンシャル・レビュー』 January 1996
- 小川一夫、竹中平蔵、桑名康夫 (1986) 「消費・貯蓄行動の日米比較」大蔵省財政金融研究所『フィナンシャル・レビュー』 December 1986
- 小杉晃子 (2009) 「ラチェット効果の低下にみる消費構造の変化」第一生命経済研究所『Economic Trends』
- 三和総合研究所 (2000) 「郵貯の大量満期問題の現状と満期資金の行方」
- 高村正樹 (2005) 「消費性向上昇の原因を探る—強まるラチェット効果の影響—」日本経済研究センター『JCER REVIEW』VOL.59
- チャールズ・ユウジ・ホリオカ、井原一麿、越智田邦史、南部一雄 (1992) 「日本の貯蓄率の水準と決定要因について」大蔵省財政金融研究所『フィナンシャル・レビュー』 December 1992
- 中川忍、大島一朗 (2000) 「実質金利の低下は個人消費を刺激するのか?—実証分析を中心に—」日本銀行調査統計局『Working Paper Series』
- 日本銀行調査統計局 (2006) 「近年における個人消費の底堅さとその背景」
- 野口悠紀雄 (1990) 「人口構造と貯蓄・投資」大蔵省財政金融研究所『フィナンシャル・レビュー』 August 1990
- European Central Bank, OECD (2004) “Comparison of household saving ratios Euro area/

United States/Japan.”

第2節について

- 上田貴子、佐々木明果（2005）「家計消費と家族属性 —「消費生活に関するパネル調査」個票データによるミクロ分析—」財務省財務総合政策研究所『フィナンシャル・レビュー』August 2005
- 宇南山卓（2009）「SNA と家計調査における貯蓄率の乖離 —日本の貯蓄率低下の要因—」RIETI『Discussion Paper Series』
- 観光地域経営フォーラム（2009）「「休暇」から「休活」へ 有給休暇の活用による内需拡大・雇用創出」『休暇改革推進部会 報告書』
- 北村行伸（2005）『パネルデータ分析』岩波書店
- 神津多可思、佐藤嘉子、稲田将一（2003）「わが国の人口動態がマクロ経済に及ぼす影響について」『日本銀行ワーキングペーパーシリーズ』
- 櫻本健（2007）「90年代以降におけるSNA家計貯蓄率低下原因に関する研究 —『家計調査』に基づく近似推計とその要因分解—」『国民経済計算（季刊 NO.134）』平成19年度第2号
- 新堂精士（2003）「消費における供給要因の重要性」富士通総研経済研究所
- 谷崎久志「カルマン・フィルター・モデルの理論と経済学への応用」
- 博報堂生活総合研究所（2008）「世界8都市・環境生活調査」
- 林文夫（1986）「恒常所得仮説の拡張とその検証」経済企画庁経済研究所『経済分析』第101号
- 前田武宏（2008）「SNAと家計調査における平均消費性向の簡易調整 —高齢化をマクロの経済予測に織り込む—」日本経済研究センター『JCER REVIEW』VOL.64
- 吉川洋、松本和幸（2001）「産業構造の変化と経済成長」財務省財務総合政策研究所『フィナンシャル・レビュー』July 2001

第3節について

- 柏木敬子（2010）「韓国 基礎レポート（国民経済）」国際金融情報センター
- 倉橋透、小林正宏（2008）『サブプライム問題の正しい考え方』中公新書
- 住宅リフォーム推進協議会（2009）「平成21年度 住宅リフォーム実態調査」
- 須山馨（2007）「各国のリバースモーゲージ制度とわが国の課題」早稲田大学大学院
- 内閣府（2005）「平成17年度 年次経済財政報告」
- 長田訓明（2008）「英米のリバースモーゲージ市場の動向」住宅金融支援機構 季報『住宅金

融』2008年度冬号

- 細田道隆、田中健司（2000）「米国におけるリバースモーゲージ市場の現状と課題」『損保ジャパン総研クォーターリー』
- 前橋礼美（2008）「日本で環境配慮型不動産が普及するための条件」『住信基礎研究所Report』
- みずほ総合研究所（2009）「構造変化が著しい米国のリバースモーゲージ市場」『みずほ米州インサイト』
- 村山浩和、森田雅文、坂真哉（2006）「市街地の再生技術に関する研究」『国土技術政策総合研究所プロジェクト研究報告』第5号
- 山崎古都子、陣内雄次（2002）「住宅の寿命感と中古住宅需要に関する日米比較研究 住宅管理の社会的支援に関する研究（第3報）」『日本建築学会計画系論文集』第562号
- リクルート住宅総合研究所（2007）「団塊世代の今後のライフスタイルと住まいに関する調査」
- リクルート住宅総合研究所（2008）「既存住宅流通活性化プロジェクト」
- リクルート住宅総合研究所（2009）「住宅長寿命化大作戦」
- Davis, L. W., (2010) "Evaluating the Slow Adoption of Energy Efficient Investments : Are Renters Less Likely to Have Energy Efficient Appliances?" University of California, Berkeley. <http://faculty.haas.berkeley.edu/ldavis/ee.pdf>, (参照 2010-06-17)
- Euroconstruct (2009) "68th Euroconstruct Conference Country Report."
- IBM Global Business Services (2009) "An Actuarial Analysis of FHA Home Equity Conversion Mortgage Loans In the Mutual Mortgage Insurance Fund Fiscal Year 2009." *FY 2009 HECM Actuarial Review*

第3章

第1節について

- 大守隆（2002）「GDP四半期速報の推計手法に関する統計学的一考察」内閣府経済社会総合研究所 『ESRI Discussion Paper Series』 No.13
- 川口大司他（2007）「年功賃金は生産性と乖離しているか —工業統計調査・賃金構造基本調査 個票データによる実証分析—」『経済研究』第58巻第1号
- 川本卓司、笛木琢治（2008）「景気循環要因を取り除いた生産性の計測 —2000年以降の上昇とその背景、分配面への影響—」『日銀レビュー』
- 権赫旭、深尾京司、金榮慤（2008）「研究開発と生産性上昇：企業レベルのデータによる実証分析」『Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series 003』
- 経済企画庁（1997）「平成9年度 年次経済報告」

- 厚生労働省（2001）「平成13年版 労働経済の分析」
- 厚生労働省（2002）「平成14年版 労働経済の分析」
- 国際協力銀行（2009）「わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告」
- 鈴木亘（2009）「パートタイム介護労働者の労働供給行動」世代間問題研究プロジェクト『世代間問題の経済分析 ディスカッション・ペーパー』
- 内閣府（2005）「平成17年度 年次経済財政報告」
- 内閣府（2009）「平成21年度 年次経済財政報告」
- 農林水産省（2006）「平成17年度 食料・農業・農村白書」
- 農林水産省（2008）「平成19年度 食料・農業・農村白書」
- 農林水産省（2009）「平成20年度 食料・農業・農村白書」
- 農林水産省（2010）「食料・農業・農村基本計画」
- 深尾京司、権赫旭（2003）「日本の生産性と経済成長：産業レベル・企業レベルデータによる実証分析」内閣府経済社会総合研究所『ESRI Discussion Paper Series』No.66
- 深尾京司、宮川努（2008）『生産性と日本の経済成長』東京大学出版会
- 労働省（1999）「平成11年版 労働経済の分析」
- Bart van Ark, Ewout Frankema and Hedwig Duteweerd（2004）“Productivity and Employment Growth : An Empirical Review of Long and Medium Run Evidence.” *Groningen Growth and Development Centre*
- European Central Bank (ECB)（2005）“Wage Diversity in the Euro Area : An Overview of Labour Cost Differentials Across Industries.” *ECB Occasional Paper* No. 24
- Fumio Hayashi and Edward C. Prescott（2002）“The 1990s in Japan : A Lost Decade” *Review of Economic Dynamics*. P.206-235
- Rie Fujisawa and Francesca Colombo（2009）“The Long-Term Care Workforce : Overview and Strategies to Adapt Supply to a Growing Demand” *OECD Health Working Papers*, number 44

第2節について

- 有村俊秀、杉野誠（2008）「環境規制の技術革新への影響 —企業レベル環境関連研究開発支出データによるポーター仮説の検証—」*The Journal of Science Policy and Research Management* Vol.23, No.3,201-211.
- 環境省（2003）「我が国の環境ビジネスの市場規模及び雇用規模の現状と将来予測についての推計について」
- 経済産業省（2009）「ソーラーシステム産業戦略研究会報告書」

- 資源エネルギー庁 (2009)「平成20年度エネルギーに関する年次報告」
- 末広茂 (2007)「省エネルギー指標としてのGDP原単位」『IEEJ』2007年6月
- 日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット (2008)「図解 エネルギー・経済データの読み方入門」省エネルギーセンター
- 日本エネルギー経済研究所 計量分析ユニット (2010)「EDMC／エネルギー・経済統計要覧」省エネルギーセンター
- 野村浩二 (2010)「25%削減の経済負担」『経済セミナー』2010年2月／3月号
- 林野庁 (2009)「平成20年度 森林・林業白書」
- 林野庁 (2010)「平成21年度 森林・林業白書」
- Daniel C.Esty and Michael E.Porter (2005) “National environmental performance : an empirical analysis of policy results and determinants.” *Environment and Development Economics* 10 : 391-434.
- Karen Palmer, Wallace E. Oates, and Paul R.Portney (1995) “Tightening Environmental Standards : The Benefit-Cost or the No-Cost Paradigm?” *Journal of Economic Perspectives*, 9 (4), 119-132.
- M.E.Porter (1991) , American's Green Strategy, Scientific America, 168 (April)
- M.E.Porter and C. van der Linde (1995), “Towards a New Conception of the Environmental-Competitiveness Relationships.” *Journal of Economic Perspectives*, 9 (4), 97-118.
- Paul Lanoie, Michel Party, and Richard Lajeunesse (2008), “Environmental regulation and productivity : testing the porter hypothesis.” *Journal of Productivity Analysis* Vol30, 121-128
- Runar Brannlund and Tommy Lundgren (2009) “Environmental Policy Without Costs? A Review of the Porter Hypothesis.” *International Review of Environmental and Resource Economics*.
- Stefan Ambec and Paul Lanoie (2007), “When and Why Does It Pay To Be Green?” *HEC Montreal, Institut d' économie appliqué, Cahier de recherche* : 07-04.
- T.H.Arimura,A.Hibiki,and N.Johnstone (2007), “An Empirical Study of Environmental R&D : What Encourages Facilities to be environmentally-Innovative?” *Environmental Policy and Corporate Behaviour* ,Edward Elgar Publishing, 142-173.
- The World Bank (2007)” International Trade and Climate Change – Economic, Legal, and Institutional Perspectives.”

第3節について

- 亀田制作、高川泉（2003）「ROEの国際比較分析—わが国企業の資本収益率に関する考察」『日本銀行ワーキングペーパーシリーズ』03-11.
- 経済産業省（2005）「平成17年版 通商白書」
- 経済産業省「平成20年度対日直接投資に関する外資系企業の意識調査報告書」
- 国際協力銀行、開発金融研究所「わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告」（各年度版）
- 内閣府（2004）「平成16年度 年次経済財政報告」
- 内閣府（2008）「平成20年度 年次経済財政報告」
- 内閣府（2008）「対内・対外直接投資の要因分析 —なぜ対日直接投資は少ないのか—」
- 内閣府（2009）「平成21年度 年次経済財政報告」
- 日本銀行（2009）「2008年の国際収支（速報）動向」
- 日本銀行（2010）「2009年の国際収支（速報）動向」
- IMD（2009）“World Competitiveness Yearbook 2009.”
- J.Piotrowska and W.Vanborren（2008）“Taxation papers – The corporate income tax rate-revenue paradox : Evidence in the EU.” *Working Paper*, No12-2007.
- OECD（2009）“Taxing Wages 2007/2008.”
- P.B.Sørensen（2006）“Can Capital Income Taxes Survive? And Should They?” EPRU Working Paper Series 2006-06
- R.A.Mooij and G.Nicodème（2007）“Corporate tax policy, entrepreneurship and incorporation in the EU” European Commission, Directorate-General for Economic and Financial Affairs, Economic Papers